声で届ける 十人十色の広報紙
ボランティアグループ ～朗読ＶＧ幸手～

MEMO　朗読ＶＧ幸手（会員数８人）

- 昭和 56（1981）年 12 月 16 日に会員 20 人で発足。
- 最初の音訳は昭和 57（1982）年 3 月に発行した広報さって。
- 38 年が経過した現在でも、利用者のために広報さって、社協さって市などを音訳し、情報を届けています。このほか、会員が選んだ物語を録音した「幸手エコー」も届けています。

広報さって（音訳版）ができるまで

1 割り振り

広報さっての音訳はＡ班・Ｂ班４人ずつに分かれ、毎月交代で行っています。

誰がどの部分をどのような構成で録音していくのか、割り振りを行います。

１人あたり４～８ページほど音訳を担当します。

2 録音

割り振られた部分を録音します。パソコンやデジタル録音機を使用し、基本は会員の自宅でそれぞれ行います。

録音中に生活音が入ったり、動物の鳴き声が入ったり…。録音ならではの苦労もあるそうです。

3 編集

録音してきた音声データをまとめ、ひとつの音声ファイルにします。編集終了後、ＣＤにデータを書き込んでいきます。

パソコンやデジタル録音機の操作は会員同士教えあいながら、作業を進めていきます。

4 確認・郵送

録音したＣＤが、実際に利用する再生機器で聞けるかを確認します。その後、郵便封筒に入れていきます。

現在、広報さっての音訳版利用者は10人。月末にＣＤを郵便局に持参し、広報紙発行日に届くように郵送します。

朗読ＶＧ幸手
会長　**小林茂子さん**
朗読ＶＧ幸手に入会し、現在５年目

＊朗読ＶＧに入会したきっかけは

私自身、とにかく本が好きで、今でも1日に1冊は読んでいます。

入会のきっかけは、図書館を利用していたとき、ウェルス幸手で開催される、音訳朗読講習会のチラシをみて興味をもったことです。

＊広報を音訳する際、気をつけているポイントは

広報はお知らせですので感情を込めず、分かりやすく音訳することを意識しています。逆に物語はしっかり感情を込めるようにしています。

そうは言っても、音訳に正解・不正解はありませんので、会員それぞれ個性をもって音訳しています。

利用者もその個性を聞き分けてくださって、読み方で個々を認識しています。

＊朗読ボランティアを始めて印象に残っていることは

朗読ＶＧ幸手では、年に1回、利用者と交流会を行っていますが、そこで、「いつもありがとう、楽しみにしているよ。」と言ってもらえると、とてもうれしくなります。

ほかにも、利用者の中にたまたま同い年の全盲の人がいて、その人と仲良くなれたことがとてもうれしい出来事ですね。

あとは、朗読を通してますます本が好きになりましたし、読める漢字も増えました(笑)。

＊今後の抱負は

今、利用されている人は全員が全盲の人ですが、広報紙を読むことに苦労している高齢の人にも聞いてもらうなど、利用者が増えるとうれしいですね。

＊新規会員の募集は

していいます！

今年の春に長年活動してきた会員が引退してしまったので、募集中です。

割り振りや定例会などの活動は、基本平日に行っていますが、録音は自宅で行うので、平日お仕事している人でもできるボランティアです。

会員みんなで、楽しく活動しています。ぜひ、朗読ＶＧ幸手に入会し、楽しく活動しませんか？

MEMO

キーワード

「みんなで教えあい、教わりながらできるから、楽しい！」

お気軽に！

☆入会希望の人やＣＤを希望する人は、
幸手市社会福祉協議会へ！　☎(43)3277